

第2回失神研究会を終えて

第2回失神研究会 会長 安部治彦
(産業医科大学不整脈先端治療学)

第2回失神研究会は平成23年7月2日、昭和大学臨床講堂において開催されました。参加者は全国から循環器内科医をはじめ救急医や神経内科医も含めおよそ160名の参加がありました。特別講演1は砂川賢二・九州大学循環器内科教授による失神の循環動態について、特別講演2では堀進悟・慶応義塾大学救急医学教授による救急医療における失神患者の実態についての講演をいただきました。いずれの講演も実地診療に直接役立つ内容で大変勉強になりました。

一般演題は今回19演題の発表がありました。極めてハイレベルの演題が多く、内容も救急でのCT検査、植込み型ループレコーダーやtilt検査の有効性に関するもの、てんかんと鑑別に関する演題、種々の心原性失神など広範囲にわたっていましたが、いずれもすばらしい内容ばかりで会場に釘付けになり、活発な議論が繰り広げられ非常に盛り上がりました。

今回の研究会では、若手研究者の今後国内での失神研究の発展の励みになることを期待し、一般演題の中から特に優れた研究報告者に対して最優秀賞1名と優秀賞2名を設け、選考委員7名による厳正な選考を行い表彰することにいたしました。その結果、最優秀賞には河野律子先生（産業医科大学）が、優秀賞に山口由明先生（富山大学）と古川俊行先生（秀和総合病院）が見事受賞され、会終了後の懇親会で表彰されました。

一般演題の応募が予想より多かったため、1演題あたり10分しか発表時間が割けなかったことが非常に残念で、プログラム責任者として大いに反省したところです。また今回の研究会では、てんかん発作との鑑別が極めて困難な症例が少なくないこと等がトピックスとなっていました。てんかん専門医による脳波の正確な診断がないと誤診の原因となる点も指摘され、今後失神の診療を行っていく上で、てんかん専門医との連携の重要性が示唆されたものでした。大変貴重な意見を得ることができたと思います。

第3回研究会は住吉正孝会長（順天堂大学練馬病院）のもとで開催されます。さらに多くの先生方が参加されることを強く期待しております。